

A)他チームの発表で特に参考になった点は、「免許返納を0か100かで考えない」という視点である。自分たちのチームでは、免許返納後の移動手段の確保という課題は挙げていたが、返納そのものを前向きな選択として社会全体で捉え直すという発想までは考えてなかった。他チームは、事故ゼロの街づくりとして危険な車線やカーブで注意を促す仕組みを提案しており、事故をゼロにするための工夫を考えていた点が印象的だった。また、公共交通機関の利用を促すために、バス利用者が仮想通貨を受け取り、それを商店街で使える仕組みは、移動と買い物、地域活性化を同時に解決しようとする工夫が感じられた。それに加えて、移動販売を取り入れることで、生活圏に商業施設がないという課題にも対応しており、免許返納後の生活をイメージさせやすいなと感じた。課題と解決策が連動しており、免許返納後のこれからの生活に重点的に視点を当てていた点が、自分たちの発表にはなかった学ぶべき部分だと感じた。

B)自分たちのチームでは、地方都市における交通問題の原因として、①過疎化した市町村での暮らし、②公共交通機関の便の悪さ、③高齢者が免許返納後の生活に不安を感じていること④車に依存している。といったことを挙げてきた。しかし、他班の発表を聞いたことで、新たに「公共交通と地域経済の連携不足」や「公共交通を利用する理由が弱い」という視点を加える必要があると考えた。これらを踏まえると、地方都市の交通問題は、「移動手段を確保するためには」「高齢者が安心して免許を返納するためには」「公共交通を維持するためには」「地域経済をうまく連動させるためには」「高齢者の社会参加を促すためには」という五つの課題に整理できる。これらの課題は密接に関係しており、1つ1つ別々に対策を行うのではなく、共通して解決する視点が重要であると考えた。これらを共通して解決するためには、「移動・生活をより簡易的に捉える視点」が大切になってくる。この視点から、ビジョンとして「公共交通を中心とした、誰もが移動しやすく持続可能なコンパクトシティの実現」を設定した。当初、チーム内ではコンパクトシティ化を中心としたビジョンを想定していたが、他班の発表を踏まえ、公共交通の利用促進と地域経済との連携を同時に進めるという視点が追加されたことになる。

このビジョンを踏まえて解決策を考えると、まず「移動手段の確保」については、生活に必要な医療・商業・行政機能を一定のエリアに集約するコンパクトシティ化を進めることが考えられる。これにより、高齢者でも徒歩やバスで生活を完結させやすくなり、より多くの人に利用を促進させることができるとおもう。

次に、「公共交通の利用促進」については、バス利用と連動した仮想通貨の導入が有効であると考えられる。具体的には、バスを利用した利用者に対して、商店街やバス運賃の支払いに使える仮想通貨を付与する仕組みである。これにより、バスを利用する直接的なメリットが生まれ、公共交通機関の利用者増加が期待できる。それだけでなくさらに、「商店街の活性化」については、受け取った仮想通貨を商店街での買い物に使えるようにすることで、バス利用者が中心市街地に足を運ぶ機会が増えると考えられる。これにより、「バス→利用者→商店街」という買い物サイクルが生まれ、地域内での経済循環ができる。

これらの実施により、高齢者が外出しやすくなり、免許返納後も安心して生活できる環境が整うことが期待できる。また、高齢者が外出をすることで人と人との交流を生み、孤立防止や健康維持にもつながる。自チームでの検討に加えて、他班の発表を踏まえたことで、交通問題を単なる移動の問題として捉えるのではなく、地域経済と結びつけて考える必要があるのではないかと感じた。

ただし、仮想通貨の運用方法や財源の確保、利用者への理解拡大の方法については課題が残っており、今後は自治体や交通事業者、商店街が連携した具体的な制度について検討する必要がある。